

福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2025年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表

2025年4月30日



固形状の放射性物質：優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野

①：水処理廃棄物等

No.①-1：プロセス主建屋等ゼオライト等の回収着手（2025年度）	P1
No.①-2：HIC内ALPSスラリー移替作業（2024～2026年度）	P2
No.①-3：スラリーの脱水処理開始（2026年度）	P3
No.①-4：除染装置スラッジの回収着手（2027年度）	P4
No.①-5：大型廃棄物保管庫第一棟への吸着塔類の屋内保管移行完了（2026年度）	P5
No.①-6：大型廃棄物保管庫第二棟への水処理二次廃棄物の屋内保管移行完了	P6
No.①-7：スラリー脱水物の固体廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）における保管への移行完了	P7
No.①-8：水処理二次廃棄物の固化処理方針の策定（2025年度） 水処理二次廃棄物の固化処理方法決定・施設整備計画具体化 スラリー脱水物固化処理施設設置	P8

②：瓦礫等（これまでの廃炉作業等によるもの）／建屋解体物等

No.②-1：表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（低線量・BG相当）（2025年度） 表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（中線量）（2028年度） 高線量瓦礫類等の放射能濃度管理手法の検討 3・4号Rw/Bを対象とした施設解体に係る試験の実施 建屋解体に係る汚染調査、解体方法等の整備（建屋解体モデルの策定）（2028年度） 実施施設解体への適用（3・4号Rw/B含む）	P9
No.②-2：廃棄物貯蔵庫（10棟）運用開始（2024年度） 廃棄物貯蔵庫（10棟）一時的運用解消（2033年度）	P10
No.②-3：廃棄物貯蔵庫（11棟）運用開始（2027年度） 廃棄物貯蔵庫（11棟以降）運用開始	P11
No.②-4：溶融設備設置（2027～2029年度）	P12

③：核種分析

No.③-1：分析第一棟での廃棄物に係る分析の開始（2024年度） 分析第二棟設置（2026年度）※ 総合分析施設の設置	P13
No.③-2：分析計画に基づく試料採取・分析の実施（主要核種の濃度の把握／固化に係る化学的性状の把握／既発生瓦礫類の汚染状況のばらつきの把握（グルーピングの整理）／建屋コンクリートにおける核種浸透挙動の把握）	P14

固形状の放射性物質以外の主な目標

④：汚染水対策

No.④-1：滞留水中のα核種除去開始（2025年度） プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下	P15
No.④-2：建屋外壁局所止水対策の完了（2028年度） 建屋流入量の更なる低減 (WPくみ上げ抑制策の検討／2.5m盤汚染箇所の特定／2.5m盤汚染土壌隔離措置・浄化策等の検討／凍土遮水壁の段階的終了に係る検討)	P16

⑤：原子炉建屋内のリスクの低減

No.⑤-1：1号機原子炉建屋カパー設置（2025年度） (1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）)	P17
No.⑤-2：6号機燃料取出し完了（2025年度） (1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）)	P18
No.⑤-3：乾式キャスク仮保管設備増設 共用プール燃料搬出・高台での乾式保管の開始※	P19
No.⑤-4：1/3号機S/C水位の低下（2024年度） (3号機RHR（A）系統の水素滞留を踏まえた調査と対応)	P20
No.⑤-5：1/3号機注水停止試験・給排水流量変更試験等による炉内挙動の把握 (炉内雰囲気管理のための適切な給排水流量の検討／適切な炉内冷却方法の検討／炉内状態監視手段等の検討)	P21

⑥：設備・施設の維持・撤去

No.⑥-1：原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度） 1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）	P22
No.⑥-2：運用補助共用施設周辺の斜面対策工事の完了	P23
No.⑥-3：廃炉設備の維持・撤去に係る計画の策定（2024年度）	P24
No.⑥-4：新水処理設備の設置（新ALPS設備、新RO設備）	P25

⑦：廃炉作業を進める上で重要なもの

No.⑦-1：2号機燃料デブリ試験的取り出し・格納容器内部調査・性状把握（2024年度）	P26
No.⑦-2：1/2号機排気筒下部の高線量SGTS配管等の撤去・周辺の汚染状況調査（2025年度）	P27

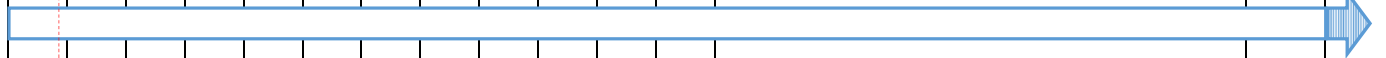
※：廃炉作業を進める上で重要なもの

⑧：継続的な実施を行うもの

No.⑧-1：原子炉建屋内等の汚染状況把握（核種分析等） 原子炉冷却後の冷却水の性状把握（核種分析） 原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握	P28
No.⑧-2：格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握（圧力容器内については今後実施予定）	P29
No.⑧-3：排水路の水の放射性物質の濃度低下	P30
No.⑧-4：高線量下での被ばく低減 建物等からのダスト飛散対策 労働安全衛生環境の改善 品質管理体制の強化 (高線量作業に対するリスク抽出及び業務管理の強化)	P31

No.		分類		項目																
①ー1		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		プロセス主建屋等ゼオライト等の回収着手（2025年度）																
現状の取り組み状況				検討課題												今後の予定				
・プロセス主建屋（PMB）、高温焼却炉建屋（HTI）については、地下階に確認された高線量のゼオライト土壌の対策を優先的に進める。 ・回収作業、集積及び容器封入作業はROV等を使用した遠隔操作で実施し、一時保管施設で保管する計画。 ・実環境を模擬したモックアップを実施中 ・2023年3月31日実施計画変更認可申請（容器封入作業） ・集積作業は、モックアップ試験にて得られた知見から改良を重ね2025年3月26日から開始。				・容器封入作業について、モックアップで得られた知見の反映を踏まえた設計検討の実施、先行する集積作業で得られた知見を反映する等、安全性・信頼性を高めていく必要がある。												・容器封入作業は、2025年度に着手予定。				
工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
ゼオライト土壌等の対策	設計・計画・モックアップ	集積作業に関する設計・モックアップ																		
		容器封入作業に関する詳細設計・モックアップ																		
	許可	実施計画（容器封入作業等）																	※1 認可希望時期調整中	
	製作・現場作業	集積用ROV等の製作・設置																		
		容器封入用ROV等の製作・設置																	実施計画認可に関わらない機器の製作・設置開始済。	
		集積作業																		
		容器封入作業																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目															
①－2		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		HIC内ALPSスラリー移替作業（2024～2026年度）															
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定					
スラリー安定化処理設備が運用開始するまでに積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業実施中。 ・2024年度に積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業を2025年2月に完了（累計125基【2023年度までに実施した102基含む】） ・2025年度に積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業を実施中（2025年4月18日時点：累計130/151基完了予定）				－										・積算吸収線量が5,000kGyを超える前に移替えを実施し、ALPSスラリー安定化処理設備の運用開始まで継続。 （2025年度：26基、2026年度：48基、2027年度：23基、2028年度：32基の移替えを計画）					
工程表																			
分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
現場作業	HIC内スラリー移替作業（スラリー安定化処理設備が運用開始するまでに積算吸収線量が上限値に達する高性能容器）	現時点																HIC内スラリー移替作業についても継続して実施していく	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																
①－ 3		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		スラリーの脱水処理開始（2028年度）																
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定						
○スラリー安定化設備 ・2021年1月7日 実施計画変更認可申請 ・設備の閉じ込め機能に係る詳細設計実施中。 ・設備の詳細設計（脱水物の充填・搬出，メンテナンス時ならびに設備運用時の作業員に対する被ばく低減策，ダスト飛散防止対策，脱水物保管容器等に係る詳細設計）を実施中。 ・HIC解体エリアの追加や長期運用を考慮した導線確保による建屋規模拡大や、気密性確保のための建屋構造変更を踏まえた建屋詳細設計を実施中。 ○スラリー抜出装置 ・HIC底部スラリーの性状確認を2基実施し、固化は確認されず。水の添加・攪拌による流動性が向上することを確認。 ・抜出装置のモックアップ（模擬スラリー）を実施し、水流を用いた抜き出し方法の成立性を確認。 引き続き装置の設計のため、モックアップを実施していく。				・設置候補地の変更に伴い、機器設計（プロセス設計ならびに機器配置設計）の見直し ・地質調査の結果を踏まえ，必要に応じ地盤改良範囲の見直し。 ・M/U結果により、セルの大きさやマニピュレータの取り付け位置に変更が生じる可能性がある。 ・耐震設計の結果、機器・建屋詳細設計の見直しの可能性がある。 ・類似工事にて積み上げた工程であり、セル設置に係わる建屋工事との調整が詳細設計後になるため、変動する可能性がある。										・第102 回特定原子力施設監視・評価検討会の資料2-1「スラリー安定化処理設備に関する審査上の論点」等（原子力規制庁）において示された論点について検討を進める。 ・フィルタープレス機本体の小型・簡素化の成立性評価結果ならびに詳細設計検討結果を踏まえ、審査の対応を進める。						
工程表																				
分類	内容		2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
許認可	実施計画																			
検証・製作・現場作業	抜き出し装置																			
	スラリー安定化処理設備（フィルタープレス機他）製作・設置	詳細設計																・耐震設計 ・機器（保管容器設計含む）、建物詳細設計、建築確認申請		
		製作・設置																		
		建屋設置																		
運用	スラリー安定化処理																	・2028年度運用開始予定		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目														
①－4		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		除染装置スラッジの回収着手（2028年度）														
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定				
・プロセス主建屋壁面に遠隔装置，吸引装置を搬入するための仮設構台の設置，および壁面の開口作業完了。 ・プロセス主建屋 1 階の除染作業を実施中 ・スラッジ抜出しの過程における脱水を計画中（“安定化処理”を別途，計画する必要があるかを今後判断） ・廃スラッジ回収設備のうち，廃スラッジ回収マニピュレータについて製作中。 ・2024年5月27日の技術会合にて，原子力規制庁殿と方向性の合意のもと，ダスト閉じ込め対策の設計を見直したが，設備の追加や筐体の大型化に伴い，耐震評価の見直しを実施中。				・抜き出し装置を設置するプロセス主建屋 1 階が高線量であることから除染の検討 ・高線量スラッジを取り扱うことから遮へい，漏えい対策等の安全対策の検討 ・抜き出し時にスラッジをどこまで脱水できるかについて検討 ・スラッジの脱水性の評価と脱水設備の設計具体化 ・ダストの気中への移行率について検討 ・ダスト閉じ込め機能のエリア，逆流防止の考え方についての整理，検討。 ・運転員や作業員の習熟度を向上させるためのモックアップ／訓練の検討										・抜き出し装置の更なる具体化，安全対策を含めた詳細設計を実施し，スラッジを高台へ移送開始する。（2028年度 スラッジ回収着手） ・ダスト閉じ込め対策を実現するための換気空調設備と配置の設計に伴い，設備の追加や筐体の大型化が必要となったため，耐震評価の見直しを実施中。耐震評価が完了次第，実施計画変更認可申請の補正を行う。				
工程表																		
対策	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
除染装置 スラッジの 移送	設計・検討	詳細設計検討															耐震評価を完了させるため，詳細設計を継続で検討中。	
	許認可	実施計画															耐震評価が完了次第，実施計画変更認可申請の補正を実施	
	製作 現場作業	除染装置フラッシング， 床面除染，遮へい設置等																
抜き出し装置製作・設置																		
	抜き出し装置運転																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前，黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①－5	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	大型廃棄物保管庫第一棟への吸着塔類の屋内保管移行完了（2026年度）															
現状の取り組み状況		検討課題												今後の予定			
・ 2020年5月27日 実施計画変更認可（建屋） ・ 2020年6月1日～ 建屋設置工事 ・ 2024年3月1日 実施計画変更認可（クレーン） ・ 2024年7月19日 実施計画変更認可（建屋補強） ・ 2024年9月18日 建屋耐震補強工事着手		・ 使用済吸着塔耐震評価・落下影響評価の内容検討 ・ 使用済吸着塔保管架台の耐震設計の変更検討 ・ 南堰への使用済吸着塔受入の検討												・ 使用済吸着塔保管架台設置の実施計画変更認可申請を行う。			
工程表																	
分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
許認可	実施計画																
製作・設置 工事	建屋耐震補強工事																
	使用済吸着塔保管架台																
運用	使用済吸着塔類の受入																建屋耐震補強工事の完了後に、SARRY吸着塔の受入れを行う。 SARRY吸着塔は2026年度中に屋内保管移行完了を行う。

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①－6	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	大型廃棄物保管庫第二棟への水処理二次廃棄物の屋内保管移行完了															
現状の取り組み状況		検討課題												今後の予定			
・2024年度より設計着手 ・大型廃棄物保管庫第一棟方式と地下方式の2案について検討中		・建設予定地のスペース有効活用 ・敷地境界線量低減方策 ・保管施設の耐震設計												・設計，検討 ・2027年度に実施計画変更認可申請予定			
工程表																	
分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
設計・検討	設計・検討																
許認可	実施計画																
現場作業	保管施設設置																

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																	
①－7		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		スラリー脱水物の固体廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）における保管への移行完了																	
現状の取り組み状況				検討課題												今後の予定					
【廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）】 ・1F耐震設計に関する考え方に基づき、耐震評価や設計を実施中				—												【廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）】 ・実施計画変更認可申請に向けて、設計検討を進める。					
工程表																					
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
固体廃棄物 貯蔵庫 第11棟以降 設置	許認可	実施計画				※															※申請時期調整中
	設計	設計検討																			
	現場作業	設置工事																			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目												
①－8		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等		水処理二次廃棄物の固化処理方針の策定（2025年度） 水処理二次廃棄物の固化処理方法決定・施設整備計画具体化 スラリー脱水物固化処理施設設置												
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定		
・実現可能な固化処理の技術的オプションの抽出・検討を実施中 ・処理方針策定に向けた計画の具体化を実施中 ・第15回 1 F 技術会合にて固化処理実施に向けた検討の進め方及び2025年度固化処理方針策定の検討事項案を説明 ・第23回 1 F 技術会合にて A L P Sスラリーの当面の分析計画を説明 ・第116回監視評価検討会にて2025年度固化処理方針策定に向けた検討の進捗状況を説明				・限定された分析データで評価せざるを得ない／分析データが存在しない廃棄物がある →要件整理にあたって種々の仮定が必要 ・固化処理の技術的な選択肢の選定に影響する事柄を踏まえた固化処理方針策定										・2025年度の固化処理方針策定に向けて処理二次廃棄物の固化処理技術等の開発について検討を進める。 ・固化処理方針策定に向けた分析の実施 ・固化処理方針策定に向けた検討の実施		

対策	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
方針策定	固化処理方針検討・策定	現時点																
計画策定・固化処理開始	具体的な固化処理計画の策定																	
	固化処理開始																	

No.	分類	項目																
②－1	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業によるもの） 建屋解体物等	表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（低線量・BG相当）（2025年度） 表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（中線量）（2028年度） 高線量瓦礫類等の放射能濃度管理手法の検討 3・4号Rw/Bを対象とした施設解体に係る試験の実施 建屋解体に係る汚染調査、解体方法等の整備（建屋解体モデルの策定）（2028年度） 実施施設解体への適用（3・4号Rw/B含む）																
現状の取り組み状況		検討課題												今後の予定				
・保管管理計画にて提示した「将来発生が見込まれる固体廃棄物」の種類・量の精査 ・第15回1F技術会合にて瓦礫類、建屋解体物等における放射能濃度管理への移行に向けた対応の基本方針及び分析方針を説明 ・建屋解体物等に対する分析方針の検討 ・容器表面線量率による瓦礫放射能濃度推定に係る検討（容器中央部の推定手法，不均一性の評価）		・既往の分析結果の集約／整理 ・分析計画に基づく，性状把握を目的としたサンプリング／分析の実施 ・表面線量率から瓦礫類放射能インベントリを推算する手法検討												・試料採取・分析として分析計画に基づく試料採取（2025年度以降分析実施分）及び分析の実施（2025年度分）を予定 ・解体モデルケース検討として既存の知見に基づく3・4号廃棄物処理建屋の汚染状況の推定、仮定した汚染状況に基づく解体モデルケース検討、分析結果に基づくコンクリートの汚染分布、汚染メカニズムの評価及び課題の抽出と分析計画更新を予定 ・瓦礫保管容器の表面線量率測定，ETCCによるインベントリ直接測定				
分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
解体モデルケース検討	3・4号Rw/Bを対象とした試験 （実際の汚染状況に基づく検討） 「将来発生が見込まれる固体廃棄物」の種類・量の精査																	建屋解体手法整備（～2028年度）
放射能濃度・性状 による保管・管理	表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（低線量・BG相当、破碎コンクリートを主対象）																	
	表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（中線量、対象材料・収納状態等拡大）																	2026～2028年度
	高線量瓦礫類等の放射能濃度管理手法の検討																	2029年度以降

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類	項目																						
②－2		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）	廃棄物貯蔵庫（10棟）運用開始（2024年度） 廃棄物貯蔵庫（10棟）一時的運用解消（2033年度）																						
現状の取り組み状況			検討課題												今後の予定										
【廃棄物貯蔵庫（第10棟）】 ・2023年2月21日に実施計画変更認可 ・10-A棟は2024年8月23日運用開始 10-B棟は2024年10月29日運用開始 10-C棟は工事完了・使用前検査（最終）受検済み。			—												【廃棄物貯蔵庫（第10棟）】 ・管理区域設定後，5月運用開始予定。										
工程表																									
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考					
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
固体廃棄物 貯蔵庫第10 棟設置	現場作業	建屋設置工事																							
		機器設置工事																							
	運用	廃棄物受入																							

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																
②－3		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）		廃棄物貯蔵庫（11棟）運用開始（2027年度） 廃棄物貯蔵庫（11棟以降）運用開始																
現状の取り組み状況				検討課題												今後の予定				
【廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）】 ・ 1F耐震設計に関する考え方に基づき、耐震評価や設計を実施中				—												【廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）】 ・ 実施計画変更認可申請に向けて、設計検討を進める。				
工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
固体廃棄物 貯蔵庫 第11棟以降 設置	許認可	実施計画				※													※申請時期調整中	
	設計	設計検討																		
	現場作業	設置工事																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																
②－４		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）		溶融設備設置（2029 ～2031年度）																
現状の取り組み状況				検討課題												今後の予定				
・ 溶融設備の基本設計（処理プロセス、設備の基本仕様、配置検討、線量評価）を完了 ・ 詳細設計（各機器、ダクト、電気設備、盤等々の具体的な構造設計）を実施中				・ 耐震クラスの設定 ・ 閉じ込め設計												・ 2025年度に実施計画変更認可申請予定。				
工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度 以降	備考
			4月 現時点	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
溶融設備設置	許認可	実施計画																		
	検討・設計	詳細設計																		
	製作・設置	設置																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																
③－１		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 核種分析		分析第二棟設置（2026年度） 総合分析施設の設置																
		固形状の放射性物質以外の主な目標 廃炉作業を進める上で重要なもの																		
現状の取り組み状況				検討課題											今後の予定					
【分析第一棟での廃棄物に係る分析の開始】 ・分析計画に基づき分析を実施 【分析第二棟設置】 ・2024年12月18日 実施計画変更認可 ・2025年3月25日 事前了解 ・2025年3月31日 着工 【総合分析施設】 ・基本仕様を設計検討中				【分析第二棟設置】 【総合分析施設】 ・先行案件で議論された基準や考え方を適切に反映すること											【分析第一棟での廃棄物に係る分析の開始】 ・分析計画に基づく分析を継続して実施 【分析第二棟設置】 【総合分析施設】 ・基本設計の継続実施（その後、詳細設計に移行）					
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
放射性物質分析・研究施設 （第2棟）	許認可	実施計画																		
	現場作業	準備工事																		
		設置工事																		
総合分析施設の設置	許認可	実施計画																		
	設計	基本設計・詳細設計 （概念検討含む）																		
	工事・作業	製作・設置																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類	項目																			
③－ 2		固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 核種分析	分析計画に基づく試料採取・分析の実施 ・ 主要核種の濃度の把握 ・ 固化に係る化学的性状の把握 ・ 既発生瓦礫類の汚染状況のばらつきの把握（グルーピングの整理） ・ 建屋コンクリートにおける核種浸透挙動の把握																			
現状の取り組み状況			検討課題										今後の予定									
・ 分析計画の継続的な更新： 金属等の分析データの蓄積（既存の分析データを踏まえた不足箇所の補強） 分析対象核種の補強（C-14,I-129等の処分重要核種等の補強） 検出下限値の改善（下限値不足の廃棄物・核種のデータの補強・再取得） 2025年度の水処理二次廃棄物固化処理方針策定に向けた分析計画更新 （ALPSスラリーの分析対象核種・検出下限の適正化、化学的性状把握） 屋外一時保管解消に向けた作業との連携（試料採取タイミングの合理化） ・ 分析用試料の採取： 瓦礫類からの試料採取（容器詰め替え、屋外一時保管からの採取） 建屋からの試料採取（滞留水接触コンクリートコア、3・4号Rw/B等） 水処理二次廃棄物からの試料採取・試料確保 ・ 大学との共同研究を活用した分析数向上可否検討 ・ 1F固体廃棄物の分析計画策定（2026年度）			【分析計画の更新】 ・ 最新の廃炉工程・作業状況等の反映 ・ 分析・試料採取等に係る技術課題への対応 【廃棄物毎の分析計画の具体化】 ・ 分析計画策定において前提とする各廃棄物の管理方法、保管・管理、処理・処分方法の仮定の仕方 ・ 再利用に係る濃度基準の検討が必要（1F固有の条件を反映した予備的安全評価の実施）										・ 分析計画の更新：瓦礫類の検討状況を踏まえた分析計画更新 建屋解体物等の検討状況を踏まえた分析計画更新 現場作業との調整（減容、詰め替え等） ・ 試料採取・分析：分析計画に基づく試料採取（2025年度以降分析実施分）、分析の実施（2025年度分）									
対策	分類	内容	2025年度													2026年度				2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月								
分析計画更新	検討	最新状況・計画の反映																			継続実施	
水処理二次廃棄物	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討																			継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新	
	試料採取・分析	KURION/SARRY吸着材																				
		ALPSスラリー																				
	解体廃棄物	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討																			継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新
試料採取・分析		建屋コンクリートコア・研り・瓦礫類等																				
瓦礫類等	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討																			継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新	
	分析	試料採取・分析（BG相当未満）																			継続実施	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類	項目															
④ー 1		固形状の放射性物質以外の主な目標 汚染水対策	滞留水中のα核種除去開始（2027年度） プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下															
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定														
【滞留水処理】 1 ～ 3 号機原子炉建屋内滞留水半減は2023年3月に完了 ・ 1 ～ 4 号機建屋滞留水を一時貯留しているプロセス主建屋、高温焼却炉建屋を代替する建屋滞留水一時貯留設備を設置し、床面露出することを計画中 ・ 2025年1月21日 実施計画変更認可（滞留水一時貯留設備設置） ・ 2025年2月12日 実施計画変更認可申請（プロセス主建屋・高温焼却炉建屋 滞留水移送装置の設置） 【滞留水中のα核種除去開始】 ・ 全α濃度の傾向監視とともに、α核種の性状分析や実液によるモックアップ試験等を進め、セシウム吸着装置後段フィルタ装置の詳細設計を実施中。 ・ 2024年6月27日 実施計画変更認可申請（セシウム吸着装置後段フィルタ装置）			【滞留水中のα核種除去開始】 ・ 実液によるモックアップ試験（フィルタ通水試験）にて想定より短時間で閉塞事象が確認され、その対策として、前処理（添加剤及び凝集剤の添加）プロセスの追加を実施し機器設計を見直した。	【滞留水処理】 ・ プロセス主建屋、高温焼却炉建屋については、極力低い水位を維持しつつ、ゼオライト土壌等の回収及びα核種拡大防止対策、床面露出用ポンプの設置後、最下階床面を露出する。 ・ プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の機能を引き継ぐ滞留水一時貯留設備を設置する。 【滞留水中のα核種除去開始】 ・ フィルタ閉塞対策として、前処理（添加剤及び凝集剤の添加）プロセスの追加を設備へ反映させ、設備を設置して、2027年度から使用開始する。 ・ 今後も全α濃度の傾向監視を継続していく。														
工程表																		
対策	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
建屋滞留水一時貯留設備の設置	現場作業	建屋滞留水一時貯留設備の製作・設置（詳細設計含む）																製作・設置期間を再精査
	許認可	実施計画															2025年1月21日認可	
滞留水中のα核種除去方法の確立	許認可	実施計画															※1 認可希望時期調整中	
	現場作業	セシウム吸着装置後段フィルタ設備製作・設置																
	運用	セシウム吸着装置後段フィルタ設備運用																
プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下	現場作業	プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下																

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
④－2	固形状の放射性物質以外の主な目標 汚染水対策	建屋外壁局所止水対策の完了（2028年度） 建屋流入量の更なる低減 ・WPくみ上げ抑制策の検討 ・2.5m盤汚染箇所の特定 ・2.5m盤汚染土壌隔離措置・浄化策等の検討 ・凍土遮水壁の段階的終了に係る検討															
現状の取り組み状況		検討課題												今後の予定			
【建屋外壁局所止水対策】 ・4号機建屋間ギャップ端部止水の施工性確認(Y装備、全面マスク着用)：2024年3月～2024年9月 ・3号機T/B建屋間ギャップ端部止水対策工事(施工エリア線量低減対策含む)：2024年7月～ 【建屋流入量の更なる低減】 ・WP汲み上げ抑制対策の検討：解析的検討、施工的検討(2024年4月～)		【建屋流入量の更なる低減】 ○中長期的な汚染水抑制対策の進め方を検討に資する調査 ・地中の深度方向の線量分布調査、被ばく線量の確認 ・埋設物への対処（内部調査手法、不明埋設物） ・深部の水位管理手法												【建屋外壁局所止水対策】 ・3号機建屋間ギャップ端部止水対策（2024年度内に着手し、2025年度内に完了予定） ・3号機以外の建屋間ギャップ端部止水対策（2026年度以降、2028年度内に完了予定） 【建屋流入量の更なる低減】 ・解析的検討、施工的検討を踏まえ、今後計画していく。			
工程表																	
内容	分類	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
WP汲み上げ抑制対策の検討（解析的検討、施工的検討）	検討																
3号機建屋間ギャップ端部止水対策	対策工事																

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。
WP：ウェルポイント

No.		分類		項目																
⑤－1		固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減		1号機原子炉建屋カバー設置（2025年度） 1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）																
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定						
・燃料取扱設備及び付帯設備の設計 ・大型カバー本体鉄骨の構外地組および構内での本体鉄骨設置を継続中 ・ガレキ撤去の計画 ・ずれが確認されたウェルプラグの処置方法の検討 ・2024年度12月より、大型カバー換気設備他据付工事を開始				・震災前から保管している破損燃料の取り扱い計画の立案 ・オペフロ内線量低減に向けた効果的な除染・遮蔽計画の立案 ・ウェルプラグのずれ状況の変化が生じた場合の対応策の立案										・燃料取扱設備及び震災前から保管している破損燃料の取り扱い等についても検討を進めていく。 ・ガレキ撤去装置製作，モックアップをガレキ撤去開始までに実施予定。						
工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
大型カバー設置	現場作業	大型カバー設置																		
大型カバー換気設備他設置	現場作業	換気設備他準備																		
		換気設備他設置																		
ガレキ撤去（カバー設置後）	設計・検討	ガレキ撤去工事の計画																		適宜，現場調査を実施して設計へ反映
	現場作業	ガレキ撤去																		大型カバー設置完了以降に実施する計画
既設天井クレーン・FHM撤去	現場作業	既設天井クレーン・FHM撤去																		大型カバー設置完了以降に実施する計画
ウェルプラグ処置	現場作業	ウェルプラグ処置																		
オペフロ除染・遮へい	現場作業	オペフロ除染・遮へい																		
燃料取扱設備設置	許認可	実施計画																		
	設計・検討	燃料取扱設備の設計																		
	製作	燃料取扱設備設置																		
	現場作業																			
燃料取り出し	設計・検討	破損燃料取り扱いの計画																		
	現場作業	燃料取り出し																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類		項目																
⑤－2	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減		6号機燃料取出し完了（2025年度） 1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）																
現状の取り組み状況			検討課題										今後の予定						
【6号機】 ・2022年4月27日 実施計画変更認可申請（6号機燃料取出に伴う構内用輸送容器収納燃料(9×9燃料)の追加） ・2022年8月30日 燃料取り出し開始 ・2022年9月25日 燃料取り出し 2回/全68回 完了 ・2022年度、共用プールの空き容量確保のため実施している乾式キャスクへの燃料装填後の一次蓋気密性確認時、判定基準を満足しない事象が発生。 原因は燃料に付着しているクラッドまたは炭酸カルシウムの影響と推定。 2023年度より、燃料を1体毎に水流により洗浄する手順や、乾式キャスク内の水を入れ替える手順を実施。これらの対応により気密性確認の手戻り無く作業を実施できている。 ・2023年10月27日 実施計画変更認可 ・2024年2月16日 6号機燃料取り出しのための共用プール空き容量確保完了 ・2025年4月16日 6号機燃料取り出し完了 【5号機】 ・共用プールの空き容量確保の為、貯蔵されている使用済み燃料をキャスク仮保管設備へ移送予定。			【5号機】 ・1～6号機の使用済み燃料を受け入れるために共用プールの空き容量確保に向けた乾式キャスク及びキャスク仮保管設備の増設										・1,2号機の作業に影響を与えない範囲で、燃料を取り出す。 ・5号機燃料取り出しは2025年度上期開始予定。						
工程表																			
対策	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考	
			4月 現時点	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
6号機燃料取り出し	現場作業	燃料取り出し	計66回／計68回														・2022年8月30日 燃料取り出し開始 ・2024年5月16日 3回目取り出し開始 ・2024年9月30日 30回目取り出し完了		
5号機燃料取り出し	現場作業	燃料取り出し																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																
⑤－3		固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減 廃炉作業を進める上で重要なもの		乾式キャスク仮保管設備増設 共用プール燃料搬出・高台での乾式保管の開始																
現状の取り組み状況				検討課題												今後の予定				
・乾式キャスクの製造及び使用前検査実施中 ・乾式キャスクの福島第一への納入を継続実施 ・2020年9月29日 実施計画変更認可（輸送貯蔵兼用キャスク（既設）30基⇒45基） ・2024年1月15日 実施計画変更認可（輸送貯蔵兼用キャスク（増設）30基） ・2023年7月6日 実施計画変更認可申請（設備増設 計65基⇒計95基）※ ※合計基数には乾式貯蔵キャスク20基含む ・2024年2月 キャスク仮保管設備の増設着手				—												・1F技術会合（第13回）（2023年9月11日）にて、措置を講ずべき事項を満たすにあたって適合すべき規則等（兼用キャスクガイド等）について整理。追加評価が必要な最大100m/sの竜巻影響評価や、森林火災・近隣の産業施設の火災・航空機落下等の火災について影響評価を実施。追加評価が必要な事項について実施計画への追記をし、補正申請を行う。				
工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
乾式キャスク増設	現場作業	乾式キャスクの製造	4月 増設済																	
		乾式キャスクの設置 （共用プールからの燃料取り出し）																		
乾式キャスク仮保管設備の増設	許認可	実施計画																		
	現場作業	乾式キャスク仮保管設備の増設工事																		
																		各号機の取り出し作業工程等を勘案し運用開始時期を精査中		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目													
⑤－4		固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減		1/3号機S/C水位の低下（2025年度） （3号機RHR（A）系統の水素滞留を踏まえた調査と対応）													
現状の取り組み状況				検討課題								今後の予定					
PCV(S/C)水位低下の方法として、2通りの方法を検討中。 ①原子注水流量低減によるもの(PCV(S/C)からの漏えいを利用) ②取水設備(S/Cの水位低下設備)の設置によるもの なお、2021年2月及び2022年3月に発生した地震以降、PCV水位低下傾向が確認されたことから、①を主案として、①で目標水位の達成が困難な場合に②に移行することを検討中。 【1号機】 ・S/C内包水のサンプリングを完了。PCV(S/C)水位計の設置完了。 ・原子炉注水流量の低減によるPCV水位低下を実施。 ・設備設置について、線量低減対策も含めた現場作業の成立性を確認、設備設計の検討中 【3号機】 ・S/C内滞留ガスのバージ作業を実施中。 ・PCV(S/C)水位計の設置完了。 ・設備設置について、ガイドパイプ案の他、既設配管を活用した水位低下方法も検討中。				・3号機について、S/C内滞留ガスの濃度(水素:約75%、Kr:約1.46×10⁴Bq/cm³)や容量(約1600Nm³と想定)を考慮すると、バージ作業に時間がかかると想定。 ・バージ期間の短縮として、D/W水素濃度管理値の見直し、PCV給排気量の増加を行う								・1号機については取水設備の設置完了を2025年度以降に予定。 ・3号機について、S/C内滞留ガスバージ作業後、PCV(S/C)水位計設置後、原子炉注水流量の低減によるPCV水位低下を予定。 ・PCV(S/C)水位低下時の原子炉安全上の影響を考慮し、PCV(S/C)水位低下に係るパラメータ(滞留水の性状含む)の監視を行いながら、段階的にPCV(S/C)水位低下を行う。					
工程表																	
分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
1号機PCV 水位低下	PCV(S/C)水位計の設計・製作・設置																
	線量低減・サンプリング機構設置・採水																
	取水設備の設計・製作・設置																
	PCV水位低下																原子炉注水流量の調整によるPCV水位低下の終了(2024年10月末)
3号機PCV 水位低下	PCV(S/C)水位計の設計・製作・設置																
	現場適用性の課題抽出・整理																
	現場適用の成立性確認																
	水位低下設備の設計検討																
	水位低下設備設置に伴う環境整備																
	PCV水位低下																原子炉注水流量の調整によるPCV水位低下
3号機PCV内 取水設備設置	取水設備運転開始 （S/C内包水の水質改善）																PCV取水設備の運転開始

※PCV水位低下前のS/C内の滞留ガス（水素）についてバージ作業が必要であり、バージ作業の進捗を踏まえPCV水位低下を実施予定
赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類		項目															
⑤- 5	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減		1/3号機注水停止試験・給排気流量変更試験等による炉内挙動の把握 ・炉内雰囲気管理のための適切な給排気流量の検討 ・適切な炉内冷却方法の検討 ・炉内状態監視手段等の検討															
現状の取り組み状況			検討課題											今後の予定				
【給排気流量変更試験】 ・1号機PCV閉じ込め強化に向けた試験を実施（2023年11月）。 ・第111回監視・評価検討会（2024年2月）において、1号機PCV閉じ込め強化に向けた試験の結果を踏まえた今後の対応についての考察を説明。 【注水停止試験】 ・2020年～2021年の注水停止試験実績 1号機：2020年11月26日～12月1日 2号機：2020年8月17日～8月20日 3号機：2021年4月9日～4月16日 ・2・3号機の注水量を1.7m3/hへ低減。（本運用開始中） 2号機：2022年3月10日～ 3号機：2022年1月6日～ ・3号機についてPCVからの漏えい箇所の把握、長期の注水停止時の影響確認を目的に注水停止試験を実施※（注水停止期間2022年6月14日～6月19日）。 ※6月19日にPCV水位が新設温度計(TE-16-001)/水位計(LS-16-001)を下回ったと判断したことから注水再開 ・1号機について注水量低減によるPCV水位低下を実施（2024年3月から）したことにより、注水量を1.4m3/hに低減			【炉内雰囲気管理のための適切な給排気流量の検討】 ・1号機PCV閉じ込め強化に向けた試験の結果を踏まえると、中長期的な炉内環境の管理(不活性雰囲気を持続しつつ放射性物質の拡散を抑制する管理)の観点では、均圧（給排気流量が均等）のほうが管理がしやすい可能性があり、プラント毎の試験が必要。 【適切な炉内冷却方法の検討】 ・1号機PCV閉じ込め強化に向けた試験の結果を踏まえると、局所的に水冷の効果が小さく、空冷の効果が大きい可能性があり、空冷でPCV内全体の冷却が可能なのか、冷却方法の選択肢を増やす余地の有無を確認していく必要がある。 【炉内状態監視手段等の検討】 ・上記の炉内環境の管理方法に対応した保安上の必要な措置を整理する必要がある。											・PCV給排気流量変更試験の計画・実施。 ・1/3号機注水停止試験の計画・実施。				
工程表																		
実現すべき姿	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
炉内環境の最適な管理	炉内雰囲気管理のための適切な給排気流量の検討	給排気流量変更試験等による炉内挙動の把握（試験の計画・実施に向けた検討等）															・1号機試験実施（2023年11月）	
	適切な炉内冷却方法の検討	1/3号機注水停止試験等による炉内挙動の把握（試験の計画・実施に向けた検討等）																
炉内状態監視手段等の検討	炉内環境の管理方法に対応した保安上の必要な措置を整理																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類											項目																					
⑥－ 1		固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去											原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度） 1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）																					
現状の取り組み状況													検討課題											今後の予定										
【原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度）】 ・ 1～4号機原子炉建屋は、損傷状況を考慮した建物モデルを用いた地震応答解析により倒壊に至らないことを確認済 ・ 原子炉建屋については、4号機は定期的に建屋内部を目視等で躯体状況を確認。1～3号機は、高線量エリアであるため建屋内外の画像等から調査可能な範囲の躯体状況を確認。 ・ 耐震安全性評価の保守的な評価モデルに対し、耐震要素の経年劣化等の有無を確認し、必要に応じ評価モデルを反映。 ・ 3号機原子炉建屋の地震観測試験を開始（2020年4月） 2020年7月、10月に地震計故障により観測を中断していたが、地震計を復旧して2021年3月より観測を再開。 ・ 1号機地震計の設置を2023年3月に完了し、同月観測を開始。 ・ 外観点検計画の立案を目的に、原子炉建屋内調査（耐震部材周辺及びアクセスルートの状況確認）を実施。（1号機：2021年11～12月、2号機：2021年10～11月、3号機：2021年5月） ・ 2023年度に遠隔操作ロボット及びドローンによる3号機の建屋内調査を実施済み（2023年8月～2024年3月） 【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・ 暫定として4階レベルに地震計設置完了													【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・ 瓦礫類撤去後の設置場所検討 ・ 地震計設置											【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・ 瓦礫類撤去後の設置場所検討 ・ 地震計設置										
工程表																																		
分類	内容	2025年度												2026年度				2027年度	2028年度以降	備考														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																					
原子炉建屋の健全性評価手法の確立	躯体状況確認 調査方法の検討 モックアップ																																	
1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）	瓦礫類撤去後の設置場所検討 地震計設置																							暫定として4階レベルに設置した地震計で計測開始										

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目																	
⑥－2		固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去		運用補助共用施設周辺の斜面对策工事の完了																	
現状の取り組み状況				検討課題										今後の予定							
・第16回1 F 技術会合にて対応方針，対策実施箇所の選定方針について提示（2023年12月26日） ・干渉物移設・撤去が必要な設備の抽出（完了） ・干渉物移設・撤去中長期シナリオ作成（完了） ・斜面セットバック工事に伴う設計（継続中）				・セットバック工事にあたって，既設構造物の移設・撤去および発生土量が必要最小限となるような平面レイアウトを検討する。 ・斜面セットバック後の付け替え道路線形の方針は具体化できている一方で、施工ヤードの設定等が明確化できていない。それにより、高圧ケーブルなどの配線や配管類の移設候補先が定まらない。										・斜面对策工事は，工事の支障となる既設設備の移設工事を含め約10年程度を見込んでいるが，なるべく早期に完了できるよう検討を進める。 ・高圧ケーブルなどの移設候補先については，委託にて検討を行い移設先および方法を定める。 ・斜面セットバック工事の施工検討を優先的にを行い、干渉物移設・撤去工事との施工ヤードを明確にする。							
工程表																					
分類	内容	2025年度												2026年度				2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月								
事前準備	支障となる移設対象設備の検討・選定																				
	支障となる設備の移設工事																				
セットバック工事	セットバック工事の設計・検討																				
	工事																	実施時期は廃炉作業の進捗を踏まえ決定			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類	項目																					
⑥－3		固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	廃炉設備の維持・撤去に係る計画の策定（2024年度）																					
現状の取り組み状況			検討課題											今後の予定										
○リブレース対象工事の抽出方法の判断フロー案を作成 ・具体的実施内容を記載した検討を実施 ・報告様式の作成 ○2024年度の取組として対象設備の抽出、設備更新計画の策定を開始			○リブレース計画策定に必要な情報 ・リブレース判断には運用計画が必要となるが、長期的計画が不透明な設備がある ・経年劣化、リスク評価を判断するために、現状の設備状態の把握 ・現時点における情報（設備運用計画、経年劣化、リスク等）を元に抽出											○継続的な取組 ・長期使用する廃炉設備について、経年劣化による設備の腐食等のリスクや設備の機能維持を考慮し信頼性向上のための設備更新等を進める。										
工程表																								
分類	内容	2025年度												2026年度				2027年度	2028年度以降	備考				
		4月 現時点	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
検討	対象設備の抽出																	対象設備の抽出済、今後も適宜実施						
	設備更新計画の策定																	設備更新計画の策定済、今後も適宜実施						
	数値計画計上																	数値計画計上済、今後も適宜実施						
設備更新	リブレース工事																			リブレース工事については各設備の検討結果による				

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
⑥－４	固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	新水処理設備の設置（新ALPS設備、新RO設備）																
現状の取り組み状況		検討課題												今後の予定				
○新ALPS設備 ・建設候補地の地質調査などを完了 ・基本設計の準備中 ○新RO設備 ・建設候補地の地質調査を完了 ・基本設計を実施中		・耐震クラスに応じた具体的な設備設計 ・身体汚染事象などの対策を踏まえた設備設計 ・ダスト閉じ込め対策の具体的な成立性の検討												・基本設計の実施。				
工程表																		
分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
新ALPS設備	検討・設計・設置																	
	運用															2029年度以降運用開始予定		
新RO設備	検討・設計・設置																	
	運用															2028年度以降運用開始予定		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類		項目													
⑦－ 1		固形状の放射性物質以外の主な目標 廃炉作業を進める上で重要なもの		2号機燃料デブリ試験的取り出し・格納容器内部調査・性状把握（2025年度）													
現状の取り組み状況				検討課題											今後の予定		
○ 2号機原子炉格納容器内部の詳細調査における実施計画変更認可申請 ・ 2018年7月25日 実施計画変更認可申請 ・ 2021年2月4日 実施計画変更認可 ○ 2号機PCV内部調査及び試験的取り出し作業のうち試験的取り出し ・ 2023年8月4日 実施計画変更認可申請 ・ 2024年2月5日 実施計画変更認可 ○ テレスコピック式試験的取り出し装置による試験的取り出し ・ 2024年2月16日 実施計画変更認可申請 ・ 2024年5月9日 実施計画変更認可 ○ 原子炉格納容器（PCV）内部調査及び・試験的取り出し作業 ・ ロボットアームについては、PCV内部調査及び試験的取り出し装置の開発として、2022年2月から実施していたJAEA楢葉遠隔技術支援センターにてモックアップを使用した試験が完了。 ・ 遠隔操作でアームに搭載したAWJツールによる障害物を除去しアクセスルートの構築が可能なことやアームにセンサや取り出し装置を搭載しベネスタル内でのデータ取得や模擬デブリの採取、双腕マニピュレータによるセンサやツール等の取外／取付作業が実施でき、作業の成立性を確認。 ・ ただし、作業に万全を期すため、試験中に確認された経年劣化箇所を踏まえ、類似箇所の部品交換等を含めて、ロボットアームの全体点検を実施中。 ・ 4月15日より2回目の取り出し作業に着手。4月17日にベデスタル内のブラットホーム開口2の状況からアクセスできると判断し、開口2からベデスタル底部へ先端治具の吊り降ろしを行い燃料デブリの把持を実施。 ・ 4月21日に線量率計測を行い回収可否の判断基準「線量率24mSv/h（20cm位置）以下」であることを確認し22日に運搬用ボックスに回収。 ・ 4月23日にエンクロージャ側面ハッチを開放し、エンクロージャ外へ運搬用ボックスを取り出し、建屋内運搬容器（DPTEコンテナ）へ収納し、大物搬入口2階のグローブボックスへ運搬実施。 ・ 4月25日、採取した燃料デブリについて、日本原子力研究開発機構（大洗原子力工学研究所）へ輸送が完了。輸送した燃料デブリは、今後、追加分析を踏まえて1年から1年半程度をかけてJAEA等の分析施設で分析し、今後実施予定の燃料デブリ取り出し工法および安全対策や保管方法の検討等に活用していく				○ 原子炉格納容器（PCV）内部調査及び試験的取り出し作業 ・ ロボットアームについては、現場環境を模擬した楢葉モックアップ試験を通じて把握した情報をもとに、制御プログラム修正等の改良を実施し、組合せワンスルー試験が完了。 ・ 試験中に確認された経年劣化箇所を踏まえ、類似箇所の部品交換等を含めて、ロボットアームの全体点検を実施中。なお、テレスコ式装置のカメラ不具合を受けて、対応について水平展開すべく検討を進めているところ。											○ 原子炉格納容器（PCV）内部調査及び試験的取り出し作業 ・ 初回の試験的取り出し作業について完了 ・ テレスコ式装置による2回目の取り出し作業が完了 ・ 次回の試験的取り出しについて、今回のテレスコ式装置を用いた一連の試験的取り出し作業の実績、並びにロボットアームの試験状況等を踏まえ、安全かつ慎重に試験的取り出しを進めるべく、今後の工程や手法について精査している。		

対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
2号機PCV内部調査及び試験的取り出し作業、性状把握	現場作業	PCV内部調査及び試験的取り出し作業																		
		性状把握																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.		分類	項目																
⑦－ 2		固形状の放射性物質以外の主な目標 廃炉作業を進める上で重要なもの	1/2号機排気筒下部の高線量SGTS配管等の撤去・周辺の汚染状況調査（2025年度）																
現状の取り組み状況			検討課題												今後の予定				
・ 2021年8月26日 実施計画変更申請認可 ・ 1号機原子炉建屋大型カバー設置工事及び、1/2号機廃棄物処理建屋雨水対策工事に干渉するエリアに敷設している配管撤去は、2021年7月に着手。切断作業中に切断装置の不具合が発生し、更なる遅延を回避するため、切断装置の信頼性向上対策を実施。残りの切断箇所 1 5 箇所を配管の切断長さ変更で9箇所とし、2023年7月に8箇所まで切断完了。 ・ 撤去を完了し1号T/B屋上に仮置き中の1号機SGTS配管（2～8箇所）の事故調査に資する線量調査を2024年12月26日に完了した。 ・ 排気筒下部とその周辺の汚染状況調査の方法を検討中			・ 1/2号機排気筒近傍配管撤去では、1/2号機Rw/B上部配管撤去の実績を反映して切断装置を設計する等準備を進めるとともに、排気筒近傍の高線量配管については、線量の再測定を実施し、より正確なデータ収集したうえで放射性防護対策の見直しを実施する												・ 1号機原子炉建屋大型カバー設置工事及び、1/2号機廃棄物処理建屋雨水対策工事に干渉するエリアに敷設している配管撤去については、切断撤去した配管の事故調査に資する作業を実施した後、小割・細断し固体廃棄物貯蔵庫へ運搬予定。周辺のその他工事と作業エリア及び実施時期を調整中。 ・ 上記、以外のエリアに敷設している配管撤去については、切断装置の設計及び放射線防護対策の見直しを今後実施することから、工事完了時期を2025年度中に見直しした。 ・ 1/2号機排気筒下部とその周辺の汚染状況調査は、高線量のSGTS配管撤去以降に実施予定。 ・ 前述の9箇所目の配管については1号機原子炉建屋大型カバー設置工事と干渉しないことを確認しており、排気筒近傍の配管撤去と併せて撤去予定。 ・ 排気筒近傍の高線量配管について、現在線量測定の方法を検討中。周辺の工事とのクレーン及び作業ヤードの調整により2025年度7月以降に測定を実施予定。				
工程表																			
分類		内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考
			4月 現時点	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
SGTS配管等の撤去	現場作業	高線量SGTS配管撤去 (1/2号機Rw/B上部／ 1/2号機排気筒近傍)															長納期品の確保のため、早期に仕様調整、製作を計画中		
排気筒下部の汚染状況調査	現場作業	汚染状況調査	取り纏まり次第、提示																

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧－１	継続的な実施を行うもの	原子炉建屋内等の汚染状況把握（核種分析等） 原子炉冷却後の冷却水の性状把握（核種分析） 原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
継続的な取り組みを実施。			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧－2	継続的な実施を行うもの	格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握（圧力容器内については今後実施予定）	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
○1号機 原子炉格納容器（PCV）内部調査 ・遠隔調査装置を開発し、PCV内部調査を進めている。至近の調査状況は下記の通り。 ・走行型調査装置が1階グレーチング上から装置先端部を吊り下ろすことで、ベデスタル外側地下階の映像・線量率を取得（2017年3月） ・PCV地下階に水中ROVを投入し、ベデスタル内外の映像・線量率・堆積物状況の調査を実施。（2022年2月～2023年4月） ・小型ドローンおよび無線を中継するヘビ型ロボットを用いて、ベデスタル外1Fエリアおよびベデスタル内の気中部調査を実施。（2024年2月～3月） ・気中部調査の結果を踏まえ、更なる調査に向けた調査範囲の策定、調査装置の改良設計・試験・M／U計画を検討中 ○3号機 原子炉格納容器（PCV）内部調査 ・水中ROVにてベデスタル内の映像を取得（2017年7月） ・調査の格納容器アクセス口の事前作業として、環境整備等に向けた準備を実施中。 ・アクセス装置・調査装置の詳細設計を実施中で、進捗状況を踏まえ、調査実施時期の見直しを実施。 ○原子炉圧力容器（RPV）内部調査（2号機） ・オペフロ上側からアクセスする「上部穴開け調査工法」、原子炉建屋外側からアクセスする「側面穴開け調査工法」について、アクセス装置の開発、調査方式の開発を実施 ・早期に内部を確認する目的で既設計装配管を用いた調査を検討中。 RPVノズルN16A,N11Bに繋がる原子炉水位計配管を候補に調査装置・方法を検討中 ・2024年8月23日 実施計画変更認可申請		○1号機格納容器内部調査（気中部調査） ・2023年度に実施したPCV内部調査（気中部調査）から得られたベデスタル内状況を模擬したモックアップ設備による習熟訓練の実施。 ・ベデスタル内はCRD関連機器と思われる上部の構造物が複数落下していたことから、同じくドローンでRPV底部を調査するためには上部方向を確認する手段の検討。 ・PCV内の露は照明の性能を著しく低下させ視認距離を短くし、カメラに曇りを発生させる要因にもなるため気中部の調査においてはカメラや照明等の対策。 ○3号機格納容器内部調査 ・調査に向けたモックアップ設備による習熟訓練の実施 ○原子炉圧力容器（RPV）内部調査 ・アクセス装置・調査装置の開発、調査の実施に必要な付帯システムの検討等	・1号機PCV内部調査（気中部）を実施予定。 ・3号機PCV内部調査を2025年度より実施予定。 ・RPV内部調査を2024年度下期より実施予定。

工程表																		
対策	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
1号機格納容器内部調査 (気中)	検討	検討																
	製作・設置	製作・モックアップ・設置																
	作業	調査																
3号機格納容器内部調査	設計	詳細設計																
	製作・設置	製作・モックアップ・設置																
	作業	環境改善																
		調査																
2号機原子炉圧力容器内部調査	許認可	実施計画																※時期調整中
	製作・設置	製作・設置																※時期調整中
	作業	環境改善																※時期調整中
		調査																※時期調整中

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧－3	継続的な実施を行うもの	排水路の水の放射性物質の濃度低下	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
		継続的な取り組みを実施。	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧－４	継続的な実施を行うもの	高線量下での被ばく低減 建物等からのダスト飛散対策 労働安全衛生環境の改善 品質管理体制の強化（高線量作業に対するリスク抽出及び業務管理の強化）	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
継続的な取り組みを実施。			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。